

九州祖母山系障子岳におけるルリビタキの繁殖初確認

中村 豊^{1*}・稲田菊雄^{2*}

1. 宮崎大学フロンティア科学実験総合センター実験支援部門生物資源分野.

〒889-1692 宮崎県宮崎郡清武町木原5200

2. 〒889-0505 宮崎県延岡市北一ヶ岡1丁目9番1-102

はじめに

ルリビタキ *Tarsiger cyanurus* は、夏は標高2,000m近い亜高山帯に生息し、日本列島本州中部以北と北海道および四国で繁殖し、冬期は低地や南西日本に渡って越冬する(中村・中村 1995, 日本鳥学会 2000). 本種の繁殖地の南限は四国の石槌山系から赤石山系の標高1,500m以上のウラジロモミ *Abies homolepis* の生えている山地となっている(黒田ほか 1970). 宮崎県では11月頃渡来し 4月頃渡去する冬鳥として平地の公園や山地で観察される(日本野鳥の会宮崎県支部 1994). ところが1990年代に入ってから、祖母・傾山系で夏期にルリビタキのさえずりを聞いたとの情報が聞かれるようになった。しかし営巣、育雛等の繁殖に関する確認はされていなかった。

筆者らは、1993年 6月 6日に障子岳山頂(1,703m)付近でルリビタキのさえずりを初めて確認し、2002年 6月23日、巣材を運ぶメスを追跡することで、巣の位置を特定し繁殖の兆候を確認した。この記録は九州における繁殖の初記録であり、日本の繁殖地の新たな南限となるので報告する。

繁殖地の環境

障子岳は宮崎県西臼杵郡高千穂町と大分県大野郡緒方町の県境に位置し(32° 48'30"N, 131° 21'E, 標高1,703m), 祖母・傾山系の一角を占める高峰である。障子岳の北には祖母山(1,757m)がそびえ、南東に古祖母山(1,633m), 西に親父山(1,644m)がつづいている。山系全体が大分県側に勾配がきつく、宮崎県側に少しなだらかになっている。1,000mから上部は基本的にはブナクラス域の夏緑樹林帯に属するが、現在、自然林のほとんどが伐採され、沢筋や尾根筋・稜線にわずかしか残っていない。植生は、1,000m付近から1,600m付近までのブナ林は、シラキ-ブナ群集にまとめられ、1,600m以上の風衝帯の低木林は、オオヤマレンゲ-ツクシドウダン群集にまとめられている。1,500m以上のシラキ-ブナ群集からオオヤマレンゲ-ツクシドウダン群集への移行帯には、ブナ林の下層のスズダケ *Sasamorpha borealis* を欠くところに、パイケイソウ *Veratrum grandiflorum* の群落があり、ほかにツクシアケボノツツジ *Rhododendron Sorbus commixta*, ベニドウダン *Enkianthus rubens*, ツクシコバノミツバツツジ *R. reticulatum*, ツクシシヤクナゲ *R. metternichi*, ミヤマキリシマ

2004年 9月 4日 受理

キーワード: 障子岳, 南限, 繁殖初確認, ルリビタキ

* 日本野鳥の会宮崎県支部

表 1. 調査結果
Table 1. The result of the research.

Day of research	Song	Male	Female	Total	Etc.
1993. 06. 06	3			3	初めて鳴き声を聞いた
1994. 06. 05	○	1	1	4	巣立ちビナ1羽を確認
1995. 06. 29	1			1	私信
1997. 04. 26	2			2	地鳴きを確認
2000. 11. 18				0	姿・鳴き声全く確認できず
2002. 05. 05	5			5	
2002. 05. 12			1	1	追跡前に見失う
2002. 06. 02	5	1		5	新しいソングポスト発見
2002. 06. 23		2	1	3	穴に入入り
2002. 07. 07	1	2		2	空の巣
2002. 08. 03	1			2	雌の地鳴き
2002. 10. 06		1		1	成鳥

R. kiusianum, オオヤマレンゲ *Magnolia sieboldii japonica*, ナナカマド *Sorbus commixta*, コハクウ
ンボク *Styrax shiraiana*, コハウチワカエデ *Acer tschonoskii*, シロモジ *Parabenzoin trilobum* などが
みられる(河野 1991).

巣のある付近の環境は尾根に近い風衝地であり表層土は薄く母岩が露出している。オオヤマレン
ゲ―ツクシドウダン群集の構成種であるツクシシャクナゲ, コミネカエデ *Acer micranthum*, シロモジ
やナナカマドなどの低木が粗に生え林内は見通しがよい。斜面は北東に向けた45度くらいの急斜
面で下層にはウバタケギボウシ *Hosta pulchella* やヤマアジサイ *Hydrangea macrophyra* が所々に
生え, 地表は苔類で被われ落葉が堆積している。巣のすぐ近くの棚部にはニホンカモシカ
Capricornis crispus の古い糞があった。

調査方法

1994年, 1995年, 1997年の繁殖期に各 1回, 2002年の繁殖期には 6回の営巣を確認するための
調査を, はじめてさえずりを確認した障子岳山頂付近を中心に行なった。目撃した個体を追跡して
巣の位置を特定する方法とソングポスト付近で巣の場所を探す方法を併用して行なったが, 日帰り
登山での調査のため追跡調査はなかなか難しく, うまくいかなかった。結局, ソングポストの位置から
ある程度の予測をつけた数か所で巣探しを行なった。

観察結果

これらの調査により得られた結果は表 1に示すとおりであるが, 1994年 6月 5日には巣立ちして間
もない幼鳥 1羽と成鳥雄 1羽, 雌 1羽を目撃した。1995年(塚原和之 私信)に 1か所, 1997年に 2
か所, 2002年には 5か所でさえずりを確認した。

2002年 6月 23日 14時ごろ, 雌が木の枝や岩肌に向かってホバリングしながら何かを突つき, それ
をくわえてすぐ近くの岩に張り付いたコケの窪みのような穴に入っていくのがみられたので, そこを中
心に観察をつづけ, ビデオ撮影を行なった。観察中に飛来して穴に入ったのは雌だけであった。こ



図 1. 巣穴の入口で見張りをする雄と巣穴から飛び出す雌

Fig. 1. The male Siberian Bluechat guarding the entrance of the nest, and the female flying out from the nest.



図 2. 穴の中の巣

Fig. 2. The nest in a hole in the ground.

の時、雄は雌の後から穴の入口まで来て、雌が出て来るのを待ちながら、周りを警戒し見張りをしているようにみえた(図 1)。雌が穴から飛び出すと、雄も一緒に穴の入口を離れた。雌は穴に直接飛び込む場合が多く、何を運んで来たのか特定する事はできなかった。観察中に穴近くのシャクナゲの木に飛来したホトギス *Cuculus poliocephalus* を雄が追い払った。観察中 1回だけであるが 2羽の雄がついて来て、うち 1羽は雌と一緒に穴に入り、雌が出た後もしばらく穴の中に滞在した。結局 30分くらいのあいだに雌は10回以上穴に出入りしたのに対し雄は 1回のみであった。14:40天候悪化のため観察を断念し下山した。

7月 7日、穴の中には空の巣だけがあった。近くに巣立ちビナがないか探したが、みつけれなかった。巣立ちビナを探していた時、腹毛が黒っぽい成鳥雄をみた。また、近くのソングポストでは雄がさえずっていた。8月 3日には巣穴付近ではさえずりは聞かれなかったが、巣の位置から北東にあるソングポストよりもさらに東側からさえずりが聞こえ、雌の「ヒッ、ヒッ」という鳴き声も確認できた。

巣は斜面の母岩が剥き出した部分に、絡みついた木の根の根と根のあいだの隙間の奥まった穴蔵のような所にあった。穴蔵の入り口は約20cmで奥行きは約19cmであった。穴蔵の正面右奥に巣はあり、形状はオオルリ *Cyanoptila cyanomelana* の巣のような楕形をしており、大きさは外径12cm、

表 2. 巣材として使われていた蘚苔類一覧。蘚苔類の生育環境は岩月・水谷(1972)および岩月(2001)に基づく
Table 2. The list of the mosses found in the nest.

Species 種名	Habitat 生息環境
<i>Dicranodontium denudatum</i> (Brid.) Britt. ex Williams	Grows in the shade of rocks in mountainous region.
ユミゴケ	山地の日陰の岩上、腐木上や腐植土上に生える。
<i>Rhabdoweisia crispata</i> (With.) Lindb.	Grows in the shade between damp rocks.
ナメハヤスジゴケ	日陰の湿った岩上や岩隙に生える。
<i>Racomitrium heterostichum</i> (Hedw.) Brid.	Grows gregariously on the rock with greenish-brown body and white surface.
クロカワキゴケ	岩上に褐緑色で表面が白っぽい群落をつくる。
<i>Bartramiopsis lescurei</i> (James) Kindb.	Grows gregariously on the banks and rocks of subalpine coniferous forest.
フウリンゴケ	亜高山帯の針葉樹林下の土手や岩上に群生する。
<i>Pogonatum contortum</i> (Brid.) Lesq.	Grows gregariously on the shady of ground in mountainous regions.
コセイタカスギゴケ	山地の日陰の土上に群生する。
<i>Polytrichastrum formosum</i> (Hedw.) G.L.Smith	Grows gregariously on dappled shady ground.
オオスギゴケ	半日陰の土上に群生する。
<i>Thuidium recognitum</i> (Hedw.) Lindb. var. <i>delicatulum</i> (Hedw.) Warnst.	Grows gregariously on the ground and on rocks in mountainous regions.
コバノエゾシノブゴケ	山地の地上や岩上に群落をつくる。
<i>Plagiothecium cavifolium</i> (Brid.) Iwats.	Grows on the ground and rock.
マルフサゴケ	地上、腐植土上、岩上、希に樹木の基部に生える。
<i>Brotherella henonii</i> (Duby) Fleischn.	Usually grows on tree roots, rocks etc.
カガミゴケ	木の根元、腐植土上、岩上などにふつうに生える。
<i>Hypnum tristo-viride</i> (Broth.) Par.	Grows on the roots of trees or on bark and rarely on rocks in mountainous regions.
イトハイゴケ	山地の腐木や樹皮上、希に岩上に生える。
<i>Blepharostoma minus</i> Horik.	Grows on the bank of mountain trails at low altitude.
チャボマツバウロゴケ	低地の山道の土手などに生育。
<i>Diplophyllum albicans</i> (L.) Dum.	Grows on the ground and the rock above the subalpine zone.
シロコオイゴケ	亜高山帯以上の土や岩上に生育。
<i>Scapania ampliata</i> Steph.	Mainly grows on rocks above the subalpine zone.
オオヒシヤクゴケ	おもに亜高山帯以上の腐植土上や岩上、樹幹基部に生育。
<i>Plagiochila satoi</i> Hatt.	Mainly grows in wood land above the subalpine zone.
ヒメハネゴケ	おもに亜高山帯以上の林床に生育。
<i>Nipponolejeunea pilifera</i> (Steph.) Hatt.	Grows on trunks above the beech zone.
ケシゲリゴケ	ブナ帯以上の樹幹に着生。

内径 6cm, 深さ3.5cm, 高さ 4cmで, 外装はほとんど蘚類, 苔類であった(図 2). 内装はシダの仮根と思われるものと落ち葉で, 獣毛はほんのわずかであった. 産座に羽毛は全くなく, 未使用の巣のように感じた. 巣材を持ち帰り宮崎県総合博物館の黒木秀一学芸員に蘚苔類の同定を依頼し, 15種の蘚苔類を使用していることがわかった(表 2).

考察

稲田が, 1993年 6月 6日に障子岳山頂で, 山頂直下の山地風衝低木林内 3か所からルリビタキのさえずりを聞き, 繁殖を確信した翌年から2002年まで, 11回の調査を行ない得られた観察結果から, 障子岳付近では 4月から 8月までさえずりが聞かれた. 清棲(1978)や岩崎(1997)の「繁殖地では 4月から 8月ころまで囀る」という記載とは一致しているものの, 3月と 9月は調査していないので, 九州でも同じように 4月から 8月を繁殖期のさえずり期間であるとするまでには至らなかった.

ルリビタキの営巣環境は, 「標高約1,500m以上の亜高山帯の林、特に針葉樹で繁殖する」などと

記載されているが(高野 1985, 日本野鳥の会徳島県支部目録部 1988), 今回繁殖行動が確認された標高は1,650m付近であり, 標高は一致するが, 営巣地の環境については, 「亜高山帯の針葉樹林」とは異なる夏緑樹林帯の落葉広葉樹林であった. しかし, 愛媛新聞社(1992)の記載とは一致しており, ルリビタキの分布南限の生息地の特徴なのかもしれない.

今回発見した巣は, 母岩が剥き出した部分に絡みついた木の根の根と根のあいだの奥まった穴蔵のような所にあり, 中村・中村(1995)の記載とほぼ同じであった. また, 巣材は緑川(1976)と清棲(1978)の報告とほぼ一致しており, 巣の形状は外径12cm, 内径 6cm, 深さ3.5cm, 高さ 4cmで, 緑川(1976)の報告よりは小さいが, 清棲(1978)の報告とは一致した. しかし産座に羽毛が全くなかったことから, まだ未完成の巣だったと思われる.

巣づくり行動については, 中村・中村(1995)によると「雌のみがつくり, 雄はその雌について回りガードする.」とあり, 6月23日の行動でもメスのみが巣穴の中に何回も出入りし, オスは巣穴の入口まで着いて来て周りを見張るような行動をとっており, 記載と同じような行動がみられたことから 6月23日はまだ造巣活動中であつたと思われる. しかし, 7月 7日に再度巣の確認に訪れた時には, 巣穴の付近には親鳥の姿はみられなかった. 黒田(1984)や中村・中村(1995)の記載によると抱卵期間は15から16日くらいとなっている. 仮に 6月24日から抱卵したとしても 7月 7日はまだ抱卵中であり, 親鳥を全くみかけないことは考えられないので, 何らかの原因で巣を放棄したと考えられる. 23日にホトギスが飛来したことに起因するかもしれないが原因は不明である. また, 8月 3日の巣材採取の時も, 産座に羽毛が全くなく, 使用されていないような感じを受けた. これらのことを考え合わせると, 巣を完成させる前に営巣を放棄したものと考えられる.

1994年 6月 5日には幼鳥を確認しているが, 繁殖日数で逆算して約30日遡って考えても 5月初めに抱卵し, 繁殖の開始は 4月終わりになる. したがって, 九州の祖母・傾山系では本州の繁殖期の 5~8月(緑川 1976, 清棲 1978, 高野 1985, 中村・中村 1995)よりは少し早い 4月下旬には繁殖が始まっていると考えられる.

謝 辞

本稿をまとめるに当たり, 祖母山系の植物についてご指導頂いた宮崎県総合博物館の斎藤政美学芸員, ウルスラ学園高校の成迫平五郎氏, 快く蘚苔類の同定者を紹介して頂いた宮崎県総合博物館の黒木秀一学芸員, 実際に同定して頂いた埼玉県立久喜高校の木口博史氏, 服部植物研究所の水谷正美氏, 私信として夏のルリビタキの観察記録を快く提供して頂いた塚原和之氏には心からお礼申し上げます.

引用文献

- 岩崎文紀. 1997. ルリビタキ. 日本動物大百科鳥類2. pp. 97-98, p. 105. 平凡社, 東京.
 岩月善之助(編). 2001. 日本の野生植物・コケ. 平凡社, 東京.
 岩月善之助・水谷正美. 1972. 原色日本蘚苔類図鑑. 保育社, 東京.
 愛媛新聞社. 1992. 愛媛の野鳥観察ハンドブック〜はばたき〜. 愛媛新聞社, 松山市.

- 河野耕三. 1991. みやぎの森林植生(四)大崩山塊の植生. みやぎの自然(4): 52-75. 鈺脈社, 宮崎市.
- 清棲幸保. 1978. ルリビタキ. 日本鳥類大図鑑 I (増補復刻版・原著1957年). pp. 242-245. 講談社, 東京.
- 黒田長久(編). 1984. ルリビタキ. 世界文化生物大図鑑 3鳥類. p. 217. 世界文化社, 東京.
- 黒田長久・小笠原嵩・白附憲之・由井正敏. 1970. 石鎚山の鳥類調査(1969年8月). 陸上生態系における動物群集の調査と自然保護の研究昭和44年度研究報告. pp. 15-36.
- 高野伸二(編). 1985. ルリビタキ. 山溪カラー名鑑日本の野鳥. pp. 434-435. 山と溪谷社, 東京.
- 中村登流・中村雅彦. 1995. ルリビタキ. 原色日本野鳥生態図鑑<陸鳥編>. p. 177. 保育社, 東京.
- 日本鳥学会. 2000. 日本鳥類目録(改訂第6版). 日本鳥学会, 帯広市.
- 日本野鳥の会徳島県支部目録部. 1988. 創立10周年記念徳島県鳥類目録. p. 221. 日本野鳥の会徳島県支部, 徳島市.
- 日本野鳥の会宮崎県支部. 1994. 宮崎の野鳥. p. 104. 鈺脈社, 宮崎市.
- 緑川忠一. 1976. 托卵を受け入れる<ルリビタキ>. 羽田健三(監). 続野鳥の生活. pp. 93-96. 築地書館, 東京.

The First Breeding Record of the Siberian Bluechat at Mt. Syojidake in Kyushu

Yutaka Nakamura¹ & Kikuo Inada²

1. Frontier Science Research Center, Univ. Miyazaki. 5200 Kiwara, Kiyotake, Miyazaki 889-1692, Japan
2. 1-9-1-102 Kitahitotugaoka, Nobeoka, Miyazaki 889-0505, Japan

A fledgling and a nest of Siberian Bluechat *Tarsiger cyanurus* were found on Mt. Shoji-dake at the border between Oita and Miyazaki Prefecture, southern Japan. This is the first evidence of breeding in the Kyushu area and the southern limit of this species in Japan. The fledgling was found by a mountain trail on June 6, 1993. A nest in the ground was found on June 23, 2002. The opening in the earth was 20 by 20cm, and its depth was 19cm. The approach to the nest was lined with mosses.

Key words: first breeding, Mt. Shoji-dake, Siberian Bluechat, southern limit